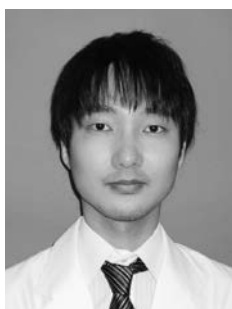


## がん研究奨励賞 (林原・山田賞)



浦田 知宏

## 略 歴

- 2013年3月31日 岡山大学医学部医学科卒業
- 2013年4月1日 高知医療センター 初期研修医
- 2015年4月1日 高知医療センター 後期研修医
- 2017年4月1日 中国中央病院 血液内科
- 2018年4月1日 岡山大学病院 血液・腫瘍内科
- 2019年4月1日 岡山大学大学院 医歯薬学総合研究科 血液・腫瘍・呼吸器内科学入学
- 2021年4月1日 岡山大学病院 輸血部
- 2023年6月1日 高知医療センター 血液内科・輸血科

## 研究論文内容要旨

びまん性大細胞型 B 細胞リンパ腫 (DLBCL) の cell-of-origin (COO) サブタイプの欧米諸国以外での分布と臨床的影響は不明である。日本人未治療 DLBCL 患者 1576 人のコホートを作成し、NanoString DLBCL90 アッセイを用いて、dark zone signature (DZsig) を含む COO サブタイプを決定した。DLBCL90 アッセイに成功した 1050 例のうち、35%、45%、6% の患者がそれぞれ胚中心 B 細胞様 (GCB) -DLBCL、活性化 B 細胞様 (ABC) -DLBCL、DZsig<sup>pos</sup>-DLBCL と同定され、ABC-DLBCL の有病率が最も高かったが、British Columbia のコホートとは有意に異なっていた ( $P < 0.001$ )。生検部位別にみると、ABC-DLBCL 症例は乳房 (73.7%、 $P < 0.05$ ) および精巣 (71.0%、 $P < 0.05$ ) に有意に多くみられたが、GCB-DLBCL 症例は上部および下部消化管 (それぞれ 58.8% および 48.6%、いずれも  $P < 0.01$ ) および甲状腺 (87.5%、 $P < 0.01$ ) に多かった。GCB-DLBCL、ABC-DLBCL、DZsig<sup>pos</sup>-DLBCL の 2 年全生存率はそれぞれ 88%、75%、66% であり ( $P < 0.0001$ )、DZsig<sup>pos</sup>-DLBCL 患者の予後は最も不良であった。一方、DZsig を含まない GCB-DLBCL では、リツキシマブを含む免疫化学療法後の予後は良好であった。DZsig<sup>pos</sup>-DLBCL は、CD10 発現、MYC/BCL2 共発現、微小環境成分の枯渇と有意に関連していた (すべて  $P < 0.05$ )。これらの結果は、日本人 DLBCL における臨床的に関連する分子サブタイプの明確な分布の証拠となり、DLBCL90 アッセイで測定される refined COO が、地理的な違いを超えて一貫した頑健な予後バイオマーカーであることを示すものである。